

～福祉教育を通して～

えびの市ボランティアセンターでは、福祉教育の一環として市内の小中学校で高齢者疑似体験、車いす体験、アイマスク体験を通して、子どもたちに福祉について考えてもらう機会を設けています。

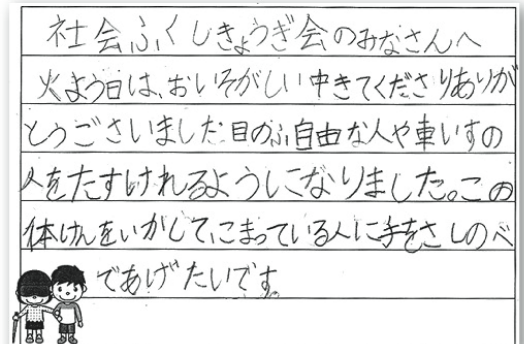
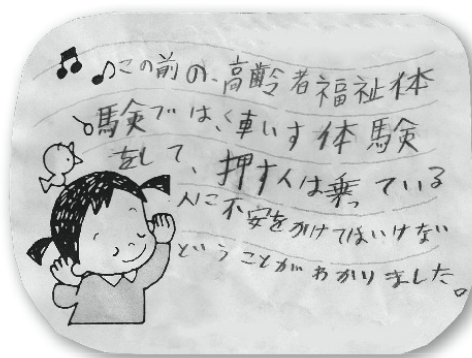
障がいのある方々が常に困っているわけではありません。しかし、今日の社会では困りごとに直面することも多くあります。だからこそ、誰もが生活しやすい環境（バリアフリー）をつくる事が大切です。できる事とできない事は誰にでもあり、人それぞれに違いもあれば同じ所もあります。

子どもの頃から福祉にふれ、考える機会を持つ事は「やさしさ」や「思いやり」といった人間性を築きあげる上で非常に重要な事です。

「えびの市に住む子どもたちが、障がいに関係なく困っている人を見かけた時に、自分ができてる事を考えて行動してほしい」

そのような思いを持ち、福祉教育を実施しています。

今年度は岡元小学校（5、6年生）、加久藤小学校（3年生）が実施しました。



支え合い・助け合い
さあ、私たちの出番です！

「お互いさま その気持ちを

令和2年2月21日、支え合い・助け合い活動の気運づくりを目的に、えびの市地域福祉推進大会を開催、約350人の方のご来場をいただきました。多くの方のご来場ありがとうございました。

【基調講演】 大分県国東市第一層生活支援コーディネーターの宮田太一郎様に、「居場所づくりからはじまる支え合い活動」を講演いただきました。

支え合い活動について、住民の方々と一緒に話し合う時間があるからこそ、自分ごとにならないと人は動かない。時間をかけて一緒に悩むことが大切。居場所づくりはあくまでもきっかけ。居場所から活動が広がる。これからの介護保険はプロにしかなできないところは介護サービスを利用、軽度の方の生活支援は住民同士で助け合うことで、支える側も役割をもって元気に生活していくことが大切。



【実践発表①】 飯野麓自治会長、下別府敏則様に、「麓いきいき秋祭り」をご紹介いただきました。

麓地区では自治会組織に自治会活動の推進のために評議員制度を設けている。自治会組織を整え、各役員に役割を分担することで、責任感が生まれる。

麓いきいき秋祭りは、「住民が麓に住んでよかったなあと思え、いきいきと元気な地域であってほしいと願い！」実施。実行委員会を中心に企画委員、自治会の部会がそれぞれに役割を持ち、子供から高齢者まで住民全員が楽しめる内容を考え、企画運営している。



【実践発表②】 小さな幸せ応援団団長、木野幸典様に、「助け合い活動の取り組み」をご紹介いただきました。

R元年度開催された暮らしねっとサポーター養成講座に参加し、自分の10年後、20年後にできなくなることを想像しながら、みんなでできることを考えた。そこで、将来の自分達のために、今、自分ができるところをやろうとボランティア団体を立ち上げた。気がねなく利用してもらうための有償ボランティア。高齢者のちょっとした困り事への手助けをすることで小さな幸せを感じてもらうことが喜びと生きがいにつながっている。



アンケートより、参加者の方の
たくさんの声をいただきました。

モデル地区
作りたい

自分たちも未来の
ためにがんばろう！

うちの地区でも
有償ボランティア
立ち上げてみたい。

居場所づくりが大切
とわかったが、送迎
が課題。

まだ、私も手伝える
ことがありそう。

みんなが自分が元気
になるために行動
しないといけない。

移動支援に興味深い。
うまくできないかな？

地域支え合い、百歳体操、小さな
幸せ応援団の活動をドッキングさ
せたらよいかも。

何気ない当たり前の行動こそ、
素晴らしい！

地域に送迎ボランティア
がいたら体操や支え合い
の参加者が増えるかも。

活き活きと生活できる
楽しい地区になるよう
にがんばろう！

を行動に」 広がれ 地域の輪！



えびの市生活支援体制整備事業

生活体制整備事業：

高齢者人口が増える中、平成27年度の介護保険制度改正により、住民が元気になるための介護保険利用に切り替わり、ボランティア、地域住民主体の多様な活動によって、高齢者を支える生活支援体制整備を行うことになりました。

〈市内の取り組み紹介〉

★ 百歳体操 ★

はつらつサポーターを中心に市内62か所で週1回精力的に実施。参加者の介護予防と健康意識脳向上につながっている。



★ 地域支え合い事業 ★

自治会のボランティア協力により52か所で年3～12回開催。地域の高齢者の介護予防、生きがい作りになっている。



★ 寺小屋ランチ ★

まちづくり協議会により月1回（第3土曜日）開催。定期的な開催で子供たちの居場所になっている。



★ カレーの日 ★

地域ボランティア協力により飯野・上江・加久藤地区にて3か月に1回開催。ボランティアと子供たちの交流の場になっている。

このほか、団体や個人のボランティア活動もあちこちで見られ、市内全体では住民のボランティア意識が高まっていると思われます。

しかし、生活支援体制整備はまだです。これからのさらなる高齢化に向けて、生活課題に対する地域の取り組みがとても重要です。地域住民が主体となった生活支援の充実をはかるため、生活支援コーディネーターが地域や住民とのパイプ役となって、住み慣れた地域で安心して生活が続けられるように、これからの高齢者の生活を支える体制づくりを進めていきます。

地域の生活の困り事って何？

- ※車の運転をしなくなったので、買い物、病院受診に困っている。
- ※足腰が弱くなって、庭の草取りもできない。ゴミ出しに行けない。
- ※百歳体操に参加したいけど、公民館が遠くて歩いていけない。
- ※災害が起きたら一人で避難できない。



～助けあいについて考える場～

- 小地域、地区公民館、小中学校区など寄り合い、集会の場（随時）
- くらしねっとサポーター養成講座（年2回開催）
- 地域福祉推進会議（年3回）

自分が将来利用できるように、
今、自分たちで、

**どげんかせんと
いかん!**



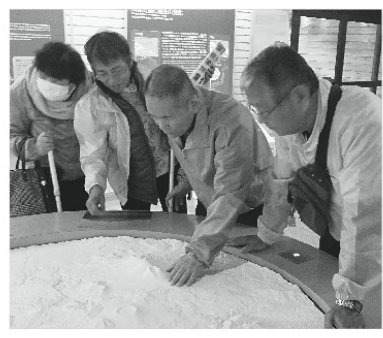
これからの暮らしを自分ごととして、真剣に考えましょう！
自分ができそうなこと、地域で取り組みそうなこと、一緒に考えてみませんか？
地域で何かしたいと考えている方は社会福祉協議会までご連絡ください。

☎35-2800 生活支援コーディネーター 栗下



視覚障がい者福祉会 ボランティア募集

えびの市視覚障がい者福祉会では、同じ障がいを持つ方同士のふれあいを目的に毎月1回老人福祉センターでの集まりと、毎月1回、年に2回バスでの外出研修を行っています。送迎や移動をするときに手伝いをしてくれるボランティアを募集しています。ガイドヘルパーが介助の仕方を指導しますので、初めての方でも大歓迎です。気軽にご連絡ください。



～プルタブのご寄附 ありがとうございます～



以前より集めていたプルタブの寄付をもとに今回、レクリエーション用具を購入しました。「地域支え合い事業」や「カレーの日」のレクリエーション活動時に有効に使わせていただきます。

ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

**優しい環境づくり、
地域で暮らす方々の為に始めてみませんか？**

プルタブをお寄せいただける方はご連絡ください(^_^)

※3kg程度から受け付けています。

※アルミ製のプルタブのみになります。



《お問い合わせ先》 えびの市社会福祉協議会 TEL: 0984-35-2800